



# 木曽林務課だより

# 12月

御嶽山、木曽駒ヶ岳が白くなってくると、木曽谷にも本格的な冬が訪れ、Xmasの声が聞こえ始めます。今回は、当地域の森林づくり県民税活用の事例を紹介します。

## 森林税がつなげる里山と地域の子供たち

木曽町日義の「宮の越地域里山整備利用地域」の方々は、「長野県森林づくり県民税（通称：森林税）」を活用し、地域の子供たちへの森林教育を含めた里山の整備・利活用を進められています

### 地域の里山の機能を知ろう

地元の日義小中学校は、総合学習の「日義学」などで地域の自然、歴史等の様々なことを学んでおり、こうした学習の一つとして。森林の多様な機能や整備の必要性、産業としての林業の課題などの出前授業を行いました。

松本地域で広がっているマツ枯れ被害についての質問などもあり、子供たちが目にしていく風景の中の森林にも興味があることがよくわかりました。



日義小中学校での出前事業

### 里山で見て触れての体験学習。

現在整備を進めている「南宮神社」周辺森林で間伐の見学をしました。

樹高15mを超える大きな木を安全に伐採するために、木に登ってワイヤーを設置する作業を見て、「なんで簡単に登れるの」と聞いたり、チェーンソーで伐られ大きな音を立てて木が倒れる際には歓声が上がるなど、普段目にしない光景の連続で子供たちにとって楽しい経験になったようです。

またこの森林で、子供たちが、それぞれ自分の「樹」を決めて、樹木名を調べ、ヒノキの板で作った名札を設置しました。これからこの場所を訪れる人たちが、子供たち一人一人の思いを書き込んだ名札を見た時に、それぞれの思いが伝わるといいなあと思います。



間伐作業の見学



名札の設置

自分の選んだ「樹」に名札をつける